

広島市立大学リエゾンフェスタ・産学公連携フェア

～情報医工学を核とした産学公連携～

《日 時》：平成23年1月21日（金） 13:00～17:00

《会 場》：広島市まちづくり市民交流プラザ（広島市中区袋町6番36号）

第一部 研修室A・B・C（北棟5階）

13:00～13:10

挨拶

公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 浅田 尚紀

13:10～15:20

講演会

（基調講演）13:10～14:10

「オール広島で人材育成・ものづくり拠点を」

国立大学法人広島大学 理事・副学長 岡本 哲治教授

（研究者講演）14:20～15:20

「脳血管画像における動脈瘤候補の検出支援」

広島市立大学 情報科学研究科 准教授 青山 正人

「カメラを用いた視線追跡とその応用技術」

広島市立大学 情報科学研究科 助教 疋田 真一

第二部 ギャラリーA・B（北棟4階）

15:20～17:00

マッチングセッション

■■■公立大学法人広島市立大学

■■■国立大学法人広島大学

■■■広島商工会議所

■■■独立行政法人科学技術振興機構

（JSTイノベーションプラザ広島）

■■■公益財団法人ひろしま産業振興機構（HTC）

■■■財団法人広島市産業振興センター

主 催：広島市立大学、広島市

後 援：中国経済産業局、中国総合通信局、広島県、

独立行政法人産業技術総合研究所中国センター、中国経済連合会、

財団法人ちゅうごく産業創造センター、社団法人中国地域ニュービジネス協議会、

公益財団法人ひろしま産業振興機構、社団法人発明協会広島県支部、広島商工会議所、

財団法人広島市産業振興センター

広島市立大学

No.	テーマ	概要	研究者
1	情報弱者のためのコミュニケーション支援技術	高齢者や視聴覚障害者などの情報弱者が医師や健常者で行うコミュニケーションを支援する ICT 技術の研究開発を進めています。音声認識や音声合成などの音声言語処理技術、顔の向きや身振りなどを認識する画像処理技術などのために多数のセンサを配置した実験設備を整備しました。わからない言葉をわかる言葉に言い換える技術や相手の気持ちを目に見える形にする技術を紹介します。	知能工学専攻 知識工学研究室、画像メディア工学研究室、コンピュータグラフィックス研究室、言語音声メディア工学研究室 教授 浅田 尚紀 教授 竹澤 寿幸 (代表) 教授 日浦 慎作 教授 松原 行宏 准教授 難波 英嗣 准教授 青山 正人 准教授 岩根 典之 講師 古川亮、馬場雅志、宮崎大輔 助教 黒澤義明、目良和也、岡本勝
2	蛋白質立体構造データベースからの知識発見	蛋白質立体構造データベースは生命科学の研究や医薬品の開発などを行う上で欠かせないものになっています。特に、立体構造データベースから類似する蛋白質を検索する機能は重要な機能の一つとして知られています。その理由は、例外を除き、立体構造が類似する蛋白質どうしは、性質がお互いに類似しているという事情によるものです。今回の展示では、蛋白質立体構造データベースから類似する部分構造を高速に見つけるために、幾何学的なサフィックス木を用いて複数の蛋白質座標配列データに対処可能な索引構造をディスク上に構築する方法について紹介します。また、この索引構造を用いて蛋白質立体構造データベースから類似部分構造の検索手法の紹介や知識発見の可能性について紹介します。	知能工学専攻 データ工学研究室 教授 北上 始 准教授 黒木 進 講師 田村 慶一 助教 森 康真 大学院生 高橋 誉文 大学院生 中村 翔
3	医用画像の読影診断支援	MR (磁気共鳴) 画像を用いて撮影した脳血管画像を対象にした脳動脈瘤候補の検出方法について紹介します。ほかにも CT (コンピュータ断層撮影) 画像なども対象に、放射線科医師の読影診断を支援するために、心電図同期心臓 CT における運動解析と可視化など、臨床現場における実用化を目指した研究を進めています。	知能工学専攻 画像メディア工学研究室、コンピュータグラフィックス研究室 教授 浅田 尚紀 教授 日浦 慎作 准教授 青山 正人 講師 古川 亮 講師 馬場 雅志 講師 宮崎 大輔
4	障害者のための支援システム開発 ～発声機能障害者、視覚障害者のために～	発声機能障害者のための体の中を伝わる音を利用した支援システムと視覚障害者が音で Windows のようなグラフィカルなインターフェースを楽しんで使える支援システムの紹介を行います。	システム工学専攻 人間工学研究室 教授 石光 俊介 助教 高橋 雄三 大学院生 菅 秀裕 大学院生 名越 隼人
5	免疫細胞の高速動態の記録と解析	産業用高速カメラ画像 (200 コマ/秒以上) を、パーソナルコンピュータを利用して長時間 (60 分以上) 連続記録する装置を開発しています。本展示では、構築した高速画像記録装置を白血球系の細胞である好中球の貪食 (異物の取り込みと処理) の記録・解析に応用した事例を紹介します。	創造科学専攻 光システム計測研究室 准教授 藤原 久志

No.	テーマ	概要	研究者
6	医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成	今年度から、本学では広島大学、広島工業大学と共に3大学連携による医療系の知識を有した情報系・工学系技術および情報工学系知識を有した高度医療人の育成を行う“医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成”を進めています。大学院課程も含むため、より専門的な知識も身につけることができます。	情報科学研究科 情報医工学プログラムWG 教授 佐野 学 教授 北上 始 准教授 青山 正人 准教授 小田垣 雅人 准教授 島 和之 准教授 永山 忍 特任助教 小島 英春 特任助教 正岡 元
7	全アミノ酸同時計測用バイオチップの開発 — 血中アミノ酸濃度を指標とする病態計測装置の開発 —	当推進室では、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センターにより受託研究費を受けて、生体を構成する成分であるアミノ酸濃度を「その場」において迅速かつ簡便・安価に計測することができる装置及び方法を開発することを目的として研究を行っています。本研究が完成することにより、医療分野では複数の病態の一括診断、食品分野では鮮度や味の計測への応用が可能です。	プロジェクト研究推進室 准教授 釘宮 章光 技師 馬部 文恵 研究協力員 深田 理恵 研究協力員 松崎 絵美 研究協力員 船本 大起 研究協力員 岸部 貴
8	高信頼コンピュータシステムのための計算機支援設計	高信頼コンピュータシステムのための計算機支援設計を紹介します。この設計では、高性能かつ高信頼なLSIコンピュータシステムを低コストで実現することを目的としています。具体的例として、障害発生時に自律的に障害から回復するFPGAを用いた高信頼システムを紹介します。	情報工学専攻 コンピュータデザイン研究室 教授 井上 智生 准教授 市原 英行 助教 吉川 祐樹
9	コンピュータへの不正侵入と情報の漏えいを防ぐためのIT技術	近年の情報化社会では、あらゆる情報がコンピュータで管理されるようになったため、コンピュータへの不正侵入などによる機密情報や個人情報の漏えいが大きな社会問題になっています。この問題を解決するため、本研究室では、高速な侵入検知システムの開発と安全な情報共有プロトコルの提案を行っている。本研究室のIT技術により、情報の安全かつ有効な利用が可能になります。	情報工学専攻 論理回路システム研究室 教授 若林 真一 准教授 永山 忍 講師 上土井 陽子 助教 稲木 雅人
10	クラウドコンピューティングのための仮想化技術	クラウドコンピューティングでは、ネットワークを経由してコンピュータリソースを柔軟・迅速・効率的に利用することができます。また仮想化技術によって、コンピュータリソースを必要に応じて自由に割り当てることができ、故障・不具合への対応や負荷分散を容易にします。今回の展示では仮想計算機を利用したクラウドコンピューティング環境の構築とクラウドコンピューティングを利用した並列処理に関する研究を紹介します。	情報工学専攻 コンピュータシステム研究室 教授 北村 俊明 講師 川端 英之 助教 窪田 昌史 大学院生 本庄 賢光
11	ホワイトスペース・コグニティブ無線	生活に密着した電子機器の無線化が進み、電波の需要が逼迫してきました。一方で、地理的条件や技術的工夫により、ホワイトスペースと呼ばれる新しい電波資源を生み出せることがあります。「エリアワンセグ」など身近なホワイトスペースの活用はすでに始まっていますが、干渉回避などの技術課題が残されています。本出展ではホワイトスペース活用に関する研究を紹介します。	情報工学専攻 情報ネットワーク研究室 准教授 高橋 賢
12	超高速衛星回線を有効利用する基盤技術の研究開発	衛星インターネットにおいて、従来の通信制御技術を用いると、衛星回線の特性のため回線帯域を十分利用することができず、高速通信が困難です。この傾向は衛星回線が高速になるほど顕著になります。本展示では、高速衛星回線を用いる衛星インターネットにおいても、高速通信が可能な新たな通信制御技術を紹介します。	情報工学専攻 情報ネットワーク研究室 教授 石田 賢治 准教授 高野 知佐、 舟阪 淳一 講師 小畑 博靖 大学院生 内藤 成文、 三村 健太
13	テレビ放送波を用いたヒト検知システム	防犯システムや高齢者見守りシステムに応用可能である「テレビ放送波を用いたヒト検知システム」の検討を行っています。展示では、ヒト検知の原理や検知精度を高めるための手法を説明するとともに、実測結果をもとに効率よくヒトを検知できることを示します。また実際にテレビ放送波を受信して、ヒトを検知するシステムのデモを行います。	情報工学専攻 環境メディア研究室 教授 吉田 彰頭 准教授 西 正博 助教 新 浩一

No.	テーマ	概要	研究者
14	新世代ネットワーク時代における堅忍持久なネットワーク—アシュアランスネットワーク—の設計に向けて	新世代ネットワークはインターネットの次の世代を見越した新しい設計思想・技術によるネットワークです。新世代ネットワークにおいて想定外の故障やセキュリティへの攻撃があったとしてもサービスアプリケーションをリアルタイムに提供し続けるためには、アシュアランスネットワークと呼ばれる堅忍持久なネットワークを設計しなければなりません。当日は、新しく開拓したアシュアランスネットワーク技術について説明します。	情報科学研究科 NICT 委託研究 「アシュアランスネットワーク技術の基本概念と実証」研究グループ 教授 角田 良明、 石田 賢治 准教授 舟阪 淳一、 大田 知行 講師 小畑 博靖 助教 井上 伸二、 河野英太郎 特任助教 小田 亮太郎 大学院生 竹内麻利央、 豊嶋 聡
15	ICTを活用した体験型学習支援システム	高等教育機関のみならず、初等中等教育の現場で ICT を活用した学習支援の取り組みが行われつつあります。本プログラムでは、体験を重視した学習支援の手法に注目し、反力デバイスやワイヤレス加速度センサなどを用いて、身体動作による体験を通じて行う学習を支援するシステムの紹介を行います。	知能工学専攻 知識工学研究室 教授 松原 行宏 准教授 岩根 典之 助教 岡本 勝 大学院生 谷村 典彦
16	階層的クラスタリングを用いた台風被害予測モデルの構築手法	本研究では、台風の予想経路から、被害の種類や規模を容易に予測する「台風被害予測モデル」の構築手法について提案しています。巨大科学データベースの一つであるデジタル台風のデータベースを用いて、データマイニングにより、過去に日本に発生した台風から被害や気象的な特徴を発見し、その特徴ごとにデータを分類することにより、モデルの構築を行っています。	知能工学専攻 データ工学研究室 教授 北上 始 准教授 黒木 進 講師 田村 慶一 助教 森 康真 大学院生 高橋 誉文 大学院生 中村 翔
17	LQG制御を用いた自動 spin 回避システム	自動車を走行中、ドライバーの運転操作ミスなどによって、オーバーステアが発生し、spin 状態に陥ることがあります。一方で、非常に習熟したドライバ（例えばレーシングドライバ）がカウンターステア操作によって spin 回避することが知られています。本展示では、この技術を LQG 制御で実現できることを紹介し、さらに、本研究室で開発中の自動 spin 回避システムを紹介します。	システム工学専攻 知的制御システム研究室 教授 小林 康秀 准教授 小野 貴彦 助教 齊藤 充行 助教 疋田 真一 大学院生 石川 陽一 大学院生 中本 達雄 大学生 浦上 綾菜
18	アクティブノイズコントロールによる騒音対策	低周波数の音の対策は吸音材や制震材では対処できません。そこで低周波領域に有効な音で音を消すアクティブノイズコントロールとその適用について紹介します。	システム工学専攻 人間工学研究室 教授 石光 俊介 助教 高橋 雄三 大学院生 浜田 浩二 大学生 上鹿庭 健浩
19	サウンドデザインとその評価	自動車をはじめとする様々な製品は静けさだけではなく、音環境としての快適さが追求されるようになってきました。自動車加速音、ボタン押し音、ゴルフショット音、オーディオ機器などのサウンドデザインとその評価手法について紹介します。	システム工学専攻 人間工学研究室 教授 石光 俊介 助教 高橋 雄三 大学院生 尾茂井 宏 大学生 上木 晴佳
20	ネットワーク・コミュニケーション円滑化のための環境情報	高速インターネットが普及し、インターネットを介した様々なコミュニケーションが行われるようになりました。円滑なネットワーク上でのコミュニケーションを実現するために必要な情報（motion noise や環境音など）に関する研究について紹介します。	システム工学専攻 人間工学研究室 教授 石光 俊介 助教 高橋 雄三 大学生 下岡 将也

No.	テーマ	概要	研究者
21	モーションメディアとその要素技術	ロボットをインターネット上の既存メディア（テキスト・音声・画像・映像）と同様なメディア；モーションメディアと提唱しています。このモーションメディアの応用として、近未来の様々な形態のホームロボットを紹介します。合わせて、移動ロボット、物体操作技術、医療・福祉応用に関わる最新研究成果も紹介します。	システム工学専攻 ロボティクス研究室 教授 岩城 敏 助教 高井 博之
22	集積回路用トランジスタ特性ばらつきの研究	2005年度から5年間、NEDO技術開発機構が研究委託を行っている国家プロジェクト「半導体MIRAIプロジェクト」に参加し、集積回路用トランジスタ特性ばらつきの「評価」、「原因説明」、「モデリング」の研究を行ってきました。その成果を展示説明します。	創造科学専攻 集積回路デバイス研究室 教授 寺田 和夫 助教 辻 勝弘
23	光るシリコンの可能性	今日集積回路の制作に欠かせないシリコン基板はそのままでは非発光性ですが、ナノ構造を形成することで可視発光特性を示します。電気化学エッチングによって形成される多孔質シリコンやスパッタリングによる微結晶について、光るシリコンのオプトエレクトロニックデバイスへの応用を目指した発光波長の制御、発光の高効率化技術などの研究例を紹介します。	創造科学専攻 情報物性工学研究室 准教授 田中 公一 准教授 八方 直久 講師 藤原 真
24	Androidとクラスタリングを用いた新世代児童見守りシステムの構築を目指して	2007年9月～12月に広島市で実施した児童見守りシステムモデル事業で得られた知見に基づき、現在、Androidの通信機能とクラスタリング技術を活用した新世代児童見守りシステムを構築中です。登下校する児童のグループをリアルタイムに把握できる特徴があります。当日は、Android端末で構成するグループをクラスタリングで分割する状況を表示するデモ等をご覧いただく予定です。	情報科学研究科 科研費基盤研究(B)「グループ活動見守りシステムに適用可能なモバイルアドホックネットワーク技術」研究グループ 教授 角田 良明 准教授 大田 知行 助教 井上 伸二 助教 河野 英太郎 特任助教 小島 英春 大学院生 森 雄一郎
25	情報科学研究科共同プロジェクト トラスダブルネットワーク基盤技術に関する研究	さまざまな脅威や障害を前提としつつも、持続可能で安定したネットワークの実現と、プライバシー保護などの安全性と利便性の高さを両立したネットワーク利用環境の提供を目的として、平成22年度から5年間、広島市立大学情報科学研究科共同研究プロジェクトを実施しています。本展示では本プロジェクトの内容を紹介します。 サブテーマ：コンテンツ流通制御技術、非常時・重要通信サービス技術、ネットワーク侵入検知専用ハードウェアの開発、分散システムにおけるセキュリティ確保とプライバシー保護、高信頼MANETルーティング技術、高安全MANETセキュリティ技術、暗号ハードウェア	情報工学専攻 教授 石田 賢治（代表） 教授 若林 真一 教授 角田 良明 教授 北村 俊明 准教授 高野 知佐 准教授 舟阪 淳一 准教授 永山 忍 准教授 大田 知行 講師 小畑博靖、 上土井陽子、 川端英之 助教 稲木雅人、井上伸二 河野英太郎、 窪田昌史
26	低炭素社会の実現を目指した水素エネルギーの研究開発	「水素エネルギー利用開発研究会」を、広島大学（先端機能物質開発センター）、中国経済産業局とともに共同主催し、広島地域の産官学組織が集まって水素エネルギー社会構築を目指し、啓発・基礎及び応用研究等様々な活動・情報交換を行っています。	プロジェクト研究推進室 特任研究員 藤井 博信
27	国際学部教員による書籍、叢書、紀要の展示	国際学部教員による近著（単著、共著）、学部叢書、そして学部紀要を展示し、学部教員の研究成果を紹介します。	国際学部教員
28	市民の英語力向上のための研究と実績	平成10年に開発を開始した「ネットワーク型集中英語学習プログラム」は、広く広島市民にも開放され、市民の英語力向上に貢献しています。同プログラムを利用して平成14年より実施している「インテンシブ英語学習プログラム」、「社会人の学び直し英語eラーニング講座」の実施概要や成果について紹介します。	国際学部 教授 青木 信之 准教授 渡辺 智恵

No.	テーマ	概要	研究者
29	公園再生とコミュニティ形成に関する地域活動	「地域コミュニティ再生」の要件について調査しました。具体的には広島市で行われている地縁団体による町内活動や「公園再生事業」において、地域コミュニティが成長し、再生する諸要因を探りました。市内 49 の町を訪問し、地域の活動者に聞き取りをして、具体的な活動事例から地域コミュニティ再生・成長に関わる諸問題や成果を浮き彫りにしました。	国際学部 教授 中島 正博
30	街区公園と指定管理者制度	広島市内の街区公園について指定管理者制度が実施されていますが、制度の普及はまだ限られています。住民団体がより利用しやすい制度に改善することが可能ではないでしょうか。それを探るために街区公園の指定管理者団体と街区公園清掃等報奨金交付団体を対象にアンケート調査を行いました。調査結果を基に政策提言を行います。	
31	企業とのマーケティング・リサーチ	連携企業とのマーケティング・リサーチや地域金融機関及びアパレル企業のマーケティング戦略への提案、さらには近年日本国内の消費者の間でも認識が高まり、流通企業にとっての重要性が大きく増している流通企業の PB（プライベート・ブランド）について、企業行動の視点から理論化を目指す研究について御紹介します。	国際学部 准教授 猪口 純路
32	CO2 削減量が見えるウォーキング支援システム (POSITIVE WALKER) の活用	ウォーキングを楽しんでいる人から、エクスプローラ経由で送られた歩数のデータに対して、ほめたり、励ましたりするメッセージを自動的に送信し、ウォーキングのやる気をおこさせるウォーキング支援システムをオムロンヘルスケアと共同で開発、システムの運用を 2009 年から始めています。 2010 年 9 月からは、車を使わずに歩いたと仮定した場合、どれくらいの「CO2 を削減しているか」を、グラフに表示する機能をウォーキング支援システムに付け加えています。	国際学部 准教授 山口 光明
33	産学連携事業「art room プロジェクト」	「art room プロジェクト」は、産学連携の一つとして、株式会社ワールドが提案する「アパレル小売事業店頭におけるアクチュアル・ヴィジュアル・プレゼンテーション」の一環で、各都市の大学とのコラボレーションによる事業です。このプロジェクトの実践として、芸術学部現代表現領域が「イオンモール広島府中ソレイユ」にある大型店舗「FLAXUS」のディスプレイ展示を展開しています。	芸術学部デザイン工芸学科 教授 鰐澤 達夫
34	地域貢献の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市立大学社会連携センターのご紹介 ・社会連携プロジェクト研究の紹介 ・市民を対象とした公開講座 ・「高大連携講座」の実施 ・地域日本語教室への日本語支援 ・学生による社会貢献型自主プロジェクト事業 ・銅蟲の商品開発に関する共同研究 ・己斐小学校での被爆モニュメント設置 ・シンボルマーク及び公共デザイン制作 ・湯来アーティストロッジ ・シャレオでの ichidai ichi (いちだいいち) ・児童危険回避システムの開発 ・市大トラック&フィールド芝生化の試み ・大塚かぐや姫プロジェクト 2010 ・安佐南区役所との地域連携協力協定書締結 ・教育研究の成果を積極的に情報発信 	

国立大学法人 広島大学

No.	テーマ	概要	研究者
1	人間の感覚-運動特性に基づく上肢運動リハビリ支援システム	生体工学とシステム工学を融合して研究開発中である、“人間の感覚-運動特性を考慮した運動制御能力の評価・リハビリ支援システム”について紹介します。本システムは数理モデル化した感覚-運動特性に基づいて、各患者に応じた運動負荷で効率的な上肢運動訓練を提示することが可能です。	大学院工学研究院 電気電子システム数理部門 生体システム論 助教 田中 良幸
2	電源供給を必要としないモアレ縞を用いた微小変位可視化メカニズム	本研究室では、電気的な要素を用いることなく力の大きさを可視化するメカニズムを開発している。このメカニズムは目視で力の大きさを確認できると共に、カメラで撮影し画像処理すれば数値にて力の大きさを取得できます。これを内視鏡手術で用いられている鉗子に実装した例を展示します。	大学院工学研究院 電気電子システム数理部門 ロボティクス 助教 高木 健

広島商工会議所

No.	概要	事業内容等
1	広島商工会議所は、明治24年の創立以来、企業活力の増進と地域経済の発展に努めています。現在、本所では、「中小企業の活力強化」「地域の活性化」を大きな柱として掲げ、中小企業施策や税制問題などについての要望活動、経営相談窓口の拡充等中小企業の方々への支援強化、都心部の賑わいづくり、経済波及効果の大きい観光振興など、幅広い事業を実施しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要望活動 ・ 産業・商業の振興 ・ 賑わい創出、観光振興 ・ 人材育成（検定試験、各種セミナー） ・ 経営支援（経営相談、融資相談、各種セミナー） ・ 福利厚生（各種共済制度、P E T 検診） ・ 登録・証明業務 ・ 貸会議室

独立行政法人 科学技術振興機構 J S T イノベーションプラザ広島

No.	概要	事業内容等
1	J S T イノベーションプラザ広島は、競争的研究資金（公募事業）の運営および、科学技術コーディネータによるコーディネート活動等を通じて、大学等研究機関のシーズの発掘から企業化までの研究開発を切れ目なく行うなど、地域におけるイノベーションの創出を総合的に支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新技術の創出に資する研究（課題解決型基礎研究） ・ 新技術の企業化開発（橋渡し型研究開発） ・ 科学技術情報の流通促進 ・ 国際的な科学技術研究協力の推進・支援 ・ 科学技術に関する知識の普及、国民の関心・理解の増進（科学コミュニケーションの推進）

公益財団法人 ひろしま産業振興機構 ひろしま技術移転センター（HTC）

No.	概要	事業内容等
1	ひろしま産業振興機構は、県内産業の発展のため、県内企業等の様々な取り組みを総合的にバックアップする公益法人です。産学官連携による新技術・新製品開発や創業・新事業展開、経営革新、経営基盤の強化、国際ビジネスの支援などを行っています。その中で、ひろしま技術移転センター（HTC）は、県内大学等と企業の知的財産等の活用に向けた総合相談支援機関とし、知的創造サイクルの原動力となる地域型TLOとして、大学等から産業界に対しての技術移転活動を展開しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術シーズの発掘・収集 ・ 技術移転 ・ 技術シーズの情報発信 ・ 発明の評価 ・ 発明の権利化 ・ 知財意識の普及啓発 ・ 公的研究資金の獲得 ・ 公的支援制度のPR ・ 発明の事業化支援

1 ひろしまビジネスサポート事例

(財)広島市産業振興センター技術振興部 及び工業技術センターの支援による成果)

広島市産業振興センター技術振興部及び工業技術センターでは、広島市の中小企業の技術力向上のため、技術指導相談、各種依頼試験や設備機器の貸出し、技術情報の提供などを行っています。

パネル展示では、昨年度に当センターが実施した支援の中から、福祉用具開発研究会の成果事例及び技術指導・アドバイザー派遣制度を利用した成果事例について紹介します。

研究会の成果：介助型高齢者向け車いす「アイ・ムーヴァ」

リハビリテーション平行棒「セーフティパーラレルポール」

技術指導相談・アドバイザー派遣制度利用の成果

：朝ごはん食品「ちゃんと、朝ごはん。シリーズ」

2 ひろしまビジネスサポート事例

(中小企業支援センターの支援による成果)

中小企業支援センターでは、広島市の中小企業や創業者の経営基盤強化のために、窓口相談やアドバイザーの派遣、各種セミナーなどを行っています。

パネル展示では、昨年度に当センターが実施した支援の中から、経営アドバイザー派遣制度、商店街活性化支援アドバイザーを利用した事例について紹介します。

- ・街のアーティストのためのレンタルギャラリー、カフェの創業
- ・天井型・屋上緑化装置商品化のための実証研究
- ・新開発商品「カルシウム黒豆」の販路開拓支援
- ・「金持開運タクシー」で商店街の活性化

3 ひろしまグッドデザイン賞

「ひろしまグッドデザイン賞」は、企業のデザイン開発力の向上などを目的に、広島市内の企業が製造またはデザイン開発した商品のうち、デザイン、機能等が優れるものに送られる賞です。

パネル展示では、昨年度に実施した第11回ひろしまグッドデザイン賞の受賞商品を紹介しています。



公立大学法人 広島市立大学社会連携センター

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

電話/FAX：082-830-1545

Email： 産学連携 sangaku@office.hiroshima-cu.ac.jp

地域連携 chiiki@office.hiroshima-cu.ac.jp

ホームページ：http://www.renkei.hiroshima-cu.ac.jp/